「宮島口まちづくり国際コンペ」選考報告
―宮島口を魅力ある未来と世界へつなぐ―

広報委員　山田　晃

講評を発表する岸井委員長。左に第1次審査を通過した8チーム、右に審査員。

世界文化遺産「厳島神社」の玄関口、「宮島口地区」のまちづくりのグランドデザイン（基本構想）を策定するため、廿日市市と広島県が、「宮島口まちづくり国際コンペ」を実施しました。このコンペは、「地域の特性を生かした魅力ある地域環境の創出」を目指している広島県の支援を受け、廿日市市が開催したものです。

平成26年12月24日にコンペ概要が発表され、県内も含め、国内外の建築士や都市計画の専門家、学生など、幅広い分野の方々から「宮島口の未来」について多くの提案が寄せられました。

寄せられた提案は、岸井隆幸委員長をはじめ、安藤忠雄氏、石川幹子氏など、各分野を代表する委員による審査を経て、10月17日に最終審査が開催され、優秀賞３作品・佳作５作品が決定されました。

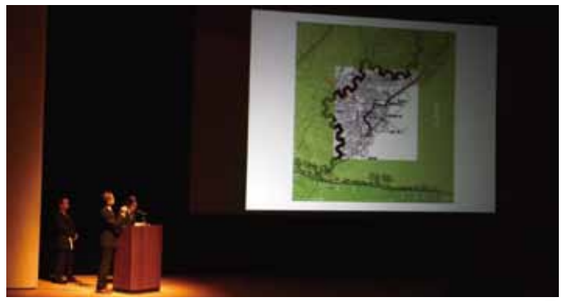
このコンペは、建築を単体で考えるのではなく、まず「まち」の未来を多様なアイデアを基にグランドデザインとしてまとめ、その未来を目指して建築などを考えていこうとするものです。

そのため、審査では独創性と実現可能性を併せ持つ提案、宮島を訪れる人々だけでなく地元の人々からも幅広く共感を得られる提案が高い評価を得ました。

今後は優秀賞作品などのコンペで得られたアイデアを活用しながら、「宮島口地区」を世界に誇れる魅力的なまちにしていくため、廿日市市によりグランドデザインが策定され、まちづくりが進められていきます。

最終審査は会場がほぼいっぱいになるほど、多くの方が見守る中で開催されました。そこにはワクワクするような期待感があったように感じます。

30年後・50年後の「宮島口」はどんな姿をしているのでしょうか。そこにはどんな建築が建っているのでしょうか。期待は膨らみます。



プレゼンテーションの様子

コンペスケジュール

- H26.12.24　市・県がコンペ開催を発表
- H27.2.6～3.27　登録受付（登録数1,004件）
- H27.5.11～6.30　作品受付（応募数230作品）
- H27.7.31　予備審査（103作品を選定）
- H27.8.27　第一次審査（8作品を選定）
- H27.10.17　最終審査・表彰式
  （優秀賞３作品・佳作５作品を決定）

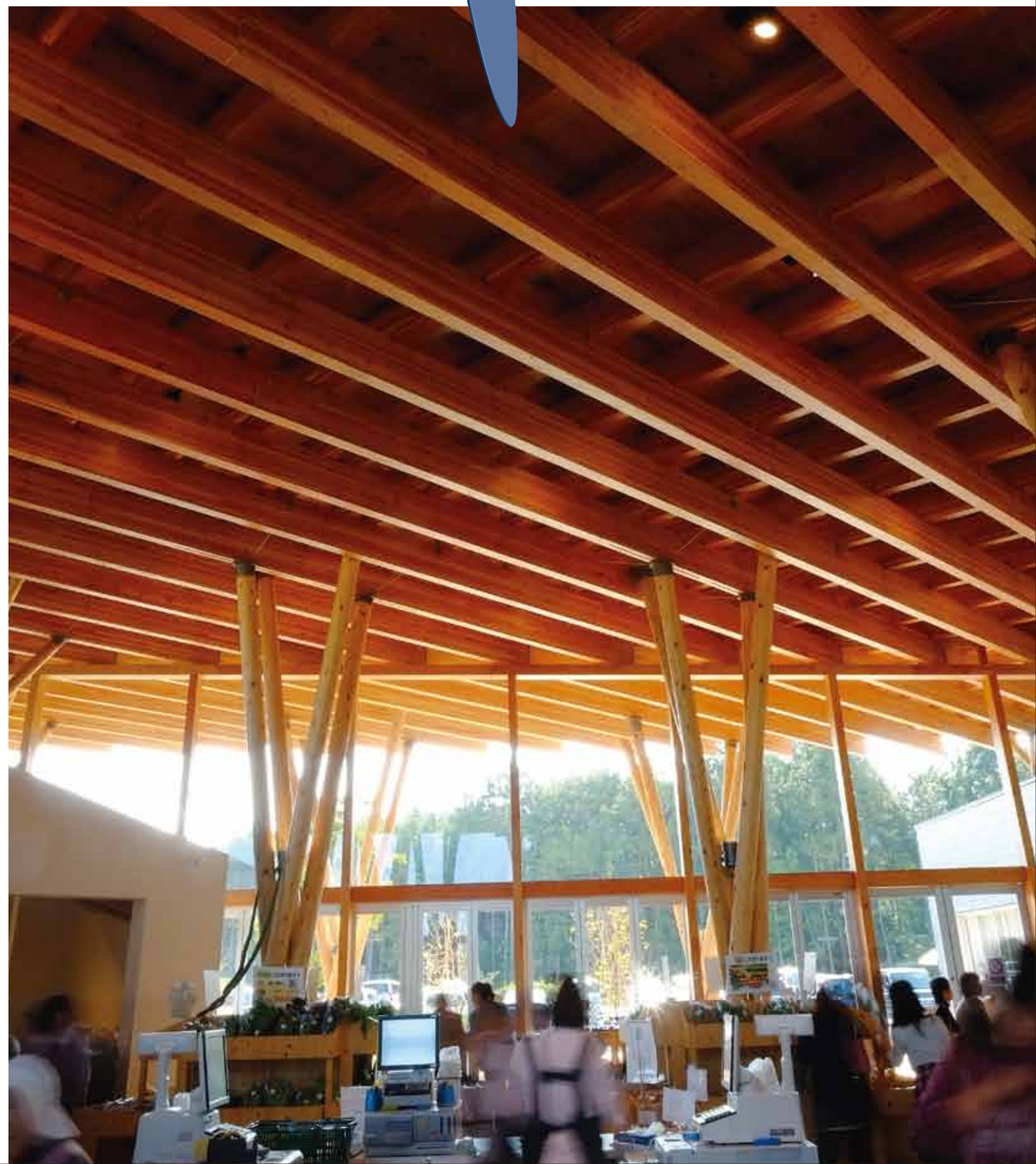
※コンペの詳細は、専用ＨＰをご覧ください。

宮島口コンペ　検索

MONTHLY 建築士 HIROSHIMA　No.108　平成27年12月１日発行
発　行　公益社団法人 広島県建築士会　〒730-0052　広島市中区千田町３丁目７番47号
TEL（082）244-6830（代）　FAX（082）244-3840　URL http://www.k-hiroshima.or.jp/
e-mail：info@k-hiroshima.or.jp
発行人　会　　長　元廣　清志
編集人　広報委員長　神岡　千春

公益社団法人
広島県建築士会
12/2015

MONTHLY No.108 建築士 HIROSHIMA



表紙写真について

三次市農業交流連携拠点施設
（愛称：トレッタみよし）

●設計監理／ナフ・アーキテクトアンドデザイン（有）
●施　　工／建築主体工事　（有）ユノカワ
電気設備工事　三次電工（株）
機械設備工事　（株）アマノ
造成工事　（株）加藤組
●所 在 地／三次市東酒屋町
●構造規模／木造　平屋建て
●敷地面積／6,328.63㎡
●延床面積／863.47㎡
●施設構成／農産物等売場、飲食施設、パン工房、調理体験工房、情報コーナー、トイレ、駐車場（乗用車78台，バス３台）
●運営形態／事業主体ー三次市
指定管理者ー（株）広島三次ワイナリー
●竣　　工／平成27年3月

本施設は，三次ＩＣから車で約5分の位置にあり、三次ワイナリー、みよし運動公園、奥田元宋・小由女美術館等、観光・文化施設の集積された地域にあります。

建物は、三次市の特産品であるブドウの木が成長し、枝を伸ばし、葉が大地を覆った空間で人々が触れ合い、くつろぎ、交流している姿をイメージしています。

自然にある木、本来のイメージに近い丸太型の木材を組み合わせ、木が成長して幹から枝を張るように、つぼみから花が開くように、大・中・小にねじるように開いた柱のユニット「木花」と、その柱頭にブドウの葉が織り込まれたようなパーゴラ状のシンプルな梁「木葉」が架かっています。

四方へ伸びるブドウの木のように、農業・交流の拠点施設として成長していくことを願っています。

専攻建築士登録の新規･更新申請手続が始まります!

■申請受付期間

平成 28 年１月初旬～２月末日（休日は除く）

■ＣＰＤ単位取得期間

①新規申請者

申請年の前年の１月１日から申請年の前年の12月31日までに取得した単位（12 単位以上）

※平成 28 年１月初旬～２月末日に新規申請する場合、平成27年１月１日～12月31日までに取得した単位が 12 単位以上必要

②更新申請者

申請年の５年前の１月１日から申請年の前年の12月31 日までに取得した単位（60 単位以上）

※平成28年1月初旬～2月末日の更新申請の対象者：平成28年３月31日が期限の方

※ＣＰＤ単位は、平成23年１月１日～平成27年12月31日に取得した単位が60単位以上必要

■申請方法

申請書式・専用サイトについては、当会HPにアップしています

①新規申請者：従来通り申請用紙を提出

②更新申請者：専用システムでサイトから更新申請または従来通り申請用紙を提出

■費用（税別）

①新規　16,000 円

②更新（WEB 申請＊割引適用）　9,000 円

（申請用紙による申請）　12,000 円

CPD認定プログラム（12月～2016年2月の広島県内実施分）

11月20日現在

日　時	プログラム名	単　位	主　催	連絡先
12／ 7	建設業における労働災害防止とリスクアセスメントの実践	6	インターウェーブ	099-812-0677
12／ 7	建築物の構造関係技術基準解説書講習会（福山）	6	広島県建築士会	082-244-6830
12／ 9	公共建築工事の積算講習会（広島）	5	経済調査会	03-3542-9291
12／ 9	「目からウロコの確認申請」発刊記念セミナー	3	ERIアカデミー	03-5775-7848
12／10	被災建築物応急危険度判定士講習会	3	広島県建築士会	082-244-6830
12／11	第２回「建築構造用鋼材と利用技術セミナー」	3	日本鉄鋼連盟	03-3669-4815
12／12	「建築積算実技」講習会（前半）	6	日本建築積算協会	082-221-9759
12／13	「建築積算実技」講習会（後半）	6	日本建築積算協会	082-221-9759
12／16	一級 / 二級 / 木造建築士定期講習 (6D-04)	6	広島県建築士会	082-244-6830
12／17	【事業者向け】建築物省エネ法の概要説明会	3	建築物省ｴﾈ法の概要説明会事務局	0120-771-266
1／19	モバイル、クラウド徹底活用！現場のコミュニケーションと情報共有	6	インターウェーブ	099-812-0677
1／20	一級 / 二級 / 木造建築士定期講習 (6D-05)	6	広島県建築士会	082-244-6830
1／20	現場代理人養成講座（A- 午前コース）	3	建設情報化協議会	03-5294-6200
1／20	現場代理人養成講座（B- 午後コース）	3	建設情報化協議会	03-5294-6200
1／20	現場代理人養成講座（C- 終日コース）	6	建設情報化協議会	03-5294-6200
1／26	監理技術者講習	6	広島県建築士会	082-244-6830
1／28	監理技術者講習	6	広島県建築士会	082-244-6830
1／30	セミナー「照明計画に関する基礎知識と事例紹介」(広島)	2	日本設備設計事務所協会	082-545-1820
2／ 2	リスクアセスメントの実践例と効果的な安全衛生対策	6	インターウェーブ	099-812-0677
2／17	一級 / 二級 / 木造建築士定期講習 (6D-06)	6	広島県建築士会	082-244-6830
2／18	現場代理人の建設マネジメントスキルと優良工事表彰獲得	6	インターウェーブ	099-812-0677

指定確認検査機関（中国地方整備局長指定第１号）　登録住宅性能評価機関（中国地方整備局長登録第５号）　登録建築物調査機関（中国地方整備局長登録第１号）
認定低炭素住宅　長期優良住宅　建築確認　住宅瑕疵保険　フラット 35 適合証明　住宅性能評価　住宅省エネラベル
ハウスプラス中国は
迅速、的確な審査で、皆様の建物の
安全、安心をサポートします。

中国エリアをすっぽりカバーしています
Energia 中国電力グループ
HOUSE PLUS ハウスプラス中国住宅保証株式会社
http://www.jutakuhosho.com/
広島本店：広島市中区国泰寺町 1-3-32 国泰寺ビル１階
TEL：082-545-5607　FAX：082-545-5608
広島北支店：広島市安佐南区西原 6-9-40-7　TEL：082-832-3310　FAX：082-875-4330
福山支店：福山市西深津町 1-10-1　TEL：084-973-9143　FAX：084-973-9146

第25回　全国女性建築士連合会に参加して

全国女性建築士連合会（以下、全建女）が、平成27年9月25･26日に、「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催され、全国から、20代から80代まで197名の女性建築士が参加しました。第25回大会という節目でもあり、全建女の立ち上げに関わられた、初代連合会女性委員長である村上美奈子氏が基調講演をされ、改めて全建女の意義を確認する会となりました。

社会活動委員会　女性部長　竹内　貴子

■９月 25 日（金）

●全国女性委員長会議

●開会式

●基調講演　「全建女の立ち上げと居住環境づくり」

講師：村上美奈子氏【(株) 計画工房主宰】

●パネルディスカッション

「未来の居住環境と暮らし方」

異業種の４人のコメンテーターによる意見交換

（門田まさこ・竹林のぞみ・内藤麻美・籠田淳子）

■９月 26 日（土）

●分科会

A：千葉建築士会「震災①防災への取り組み」

B：宮城建築士会「震災②ボランティア活動の報告」

C：岩手建築士会「歴史的建造物と建物再生」

D：山形建築士会「素材と環境共生住宅」

E：山口建築士会「景観とまちづくり」

F：長野建築士会「子どもと住環境」

G：滋賀建築士会「高齢化社会と福祉住宅」

H：東京建築士会「集まって住む」

●全体会

分科会報告・全体総評・閉会の辞

基調講演　全建女の立ち上げと居住環境づくり

講師：初代連合会女性委員長　村上　美奈子氏

村上美奈子氏は、今年で75歳を迎えられますが、単体の建築作品だけではなく、木造密集地域の再生など、まちづくりにも精力的に活動されています。講演では、建設業会での女性建築士の立場や、切り開いてきた経緯、そして将来に向けた活動など、今では当たり前となっている現在の環境を、どのような努力によって勝ち得てきたかを伺うことができました。

私たち女性建築士は、今までの活動を引き継ぎ、さらに情報発信を行うと同時に、自分たちで考えてアクションをおこし､｢女性｣という名称が必要ない社会の構築に向けてアプローチをしていく必要があるとも感じました。

― 以下に講演の内容を抜粋し、紹介します。―

全建女は､平成２年に３つの目的を持って立ち上げられ、年に１度の女性建築士の活動情報交換の場、そして新しい情報発信の場として25年を迎えた。

★全国女性建築士の支援、単位建築士会における女性委員会の設置促進

★女性築士に関する情報交換

★建築界のバランスのとれた発展に寄与する事

１）全建女の役割 ― 女性建築士の組織の必要性

- 公に認可された団体である場の力を生かし、個人の課題を持ち込み、解決の道を考える場とする。
- 若い人は、社会に出て初めて差別の実態に気づく。
- 当初、男性社会／大企業が興味を示さなかったマイナーな課題 ―「高齢化社会」について先駆けた取り組みを行い、単位建築士会で地域のリーダーシップを得た。

２）女性建築士の仕事への取り組み姿勢

- 女性には男性にはないすぐれた価値観があり、マイナーな視点からの展開ができる。(バリアフリー設計、子どもの成育環境、住環境整備など)

３）全建女の今後 ― 未来につなぐ

- 女性は単位建築士会へのこだわりが少なく、協力できる下地がある。全国的視野を持ち、地域性と東京中心の考え方の矛盾を認識する。
- 個人では解決できない課題において、全建女を通じて社会的に発言を行うべき。
- ストック時代に入り、仕事が無いのは男性だけではない。仕事の姿勢、オリジナル性で活路を見出そう。
- 女性の価値観―「ずれた価値観」を大切に。仕事と家庭の優劣がない…この価値観・生活者の視点が大事である。
- 女性の信用力は高い。まちづくり、公共事業への参加は有利。

C分科会「歴史的建造物と建物再生」岩手県建築士会 活動報告に参加して

女性部会　家頭　昌子

古い、もう使用していない、価値が無い、として取り壊されている古い建物に付加価値を持たせて、保存活用している事例として、岩手県の「達古袋小学校」の保存と利活用に取り組んでいる一関支部と、関係者によって立ち上げられた NPO の活動報告でした。

地元の人からすると当たり前の景色で、あまり価値を感じていなかった建物。だから廃校になって解体すると言われても、地元からは異論も出ず、気が付いた時には計画が進んでいた…それをひっくり返し、保存していくには、並大抵の努力ではなかったと感じました。地域住民を巻き込んで様々な活動を展開し、とにかくまずは新聞に載せてもらうことを考えたそうです。新聞に載せてもらう､ＴＶで取材してもらう―それが認知してもらえることに繋がり、地元外の人たちにも関心を持ってもらえたら、発表者曰く、「建物に惚れてくれる人」が探せたら、未来へ繋いでいけるという考えでした。活動を続ける中、公共の建物を譲り受ける受け皿には建築士会はなれないためＮＰＯを立ち上げた事、建物の存在を知ってもらう為に景観に興味を持ってもらえるよう働きかけた事、活動報告とお知らせを兼ねた広報誌を発行し続ける事、毎月開催されるＷＳ、様々な努力を重ね、「このプロジェクトに人生掛けて」取り組まれています。

昨今、建築士会ではヘリテージマネージャー養成講座が各県で開催されていて､Ｃ分科会参加者の中にも数名いらっしゃいましたが、なかなか実践で取り組める案件は無いようですし、案件に参加したくても出来ない方もいらっしゃるようです。

参加された方たちのご意見や状況を伺い、現在、呉で関わっている民間の古い建物、存続の瀬戸際に来ている案件に重ね合わせ、今後の展開を思案しているところです。全建女の２日間を通して感じた事―未来の暮らし方は幸せ作り､心のバリアフリーを目指したいと思います。

岩手県建築士会活動紹介 昭和の木造校舎の保存活動から『なかなか遺産』へ

（岩手県建築士会一関支部　阿部　えみ子氏）

岩手県一関市にある「達古袋小学校」は、なんとしても自分たちの地域に小中学校がほしいという思いの中、学区民自らが用地、建築資材、労力、建設費の８割を提供し、昭和26年に全長 119ｍの校舎が完成しました。

しかし、少子化の波には抗えず、半世紀余りが過ぎた平成25年に廃校となり、校舎の半分を解体し、残りを改修して使用する計画が進んでいました。

「この学校は美しい！」― 平成21年に校舎の耐震診断の指導を受けた坂本功氏（東京大学名誉教授）の言葉です。「この学校が美しい？」― 日々目にしている私達にとって、新鮮で新たな発見でした。なんとか全体で残せないものかと、平成24年から保存活動を開始しました。

活動を始めた時には、既に地域と市役所は解体で合意していました。地域住民に、「達古袋小学校は地域の宝、119ｍ残す事に意義がある」との説明会・講演会を開催。山の中の学校でもあり、ほとんどの市民がその存在すら知りませんでしたが、活動をするうちに新聞などで取り上げられ、広く存在が知られるようになりました。

■講演会：平成24年から毎年開催。

講　師：六角鬼丈氏 (25年)　藤森照信氏 (26年) など

■ワークショップ：｢明後日朝顔プロジェクト｣(日比野克彦氏)　「80ｍ雑巾がけ競争」「廊下レストラン」

■達古袋なかなか大学校：日本・世界の最先端の学問に触れる講座の継続的開催

最終的に、「119ｍの校舎」が残る事になりました。現在ＮＰＯを立ち上げ、保存から利活用へと活動をシフトしています。わが子のためにと、住民一丸となって造られた校舎がその役目を終え、新たな役目を担い、地域の核としてあり続けます。又、昨年、『なかなか遺産』第１号に認定され、全国的にも認知が広まっています。

★『なかなか遺産』とは、国の重要文化財や世界遺産には認定されないものの、どこにもない特異性を持ち、なかなか～！と見る人々を唸らせ、次世代に継承させたいと自然に思えてしまう共有財産のことです。「旧達古袋小学校」は、ユニークな形から“ながなが系”に分類されています。

☆問い合わせ先：国際「なかなか遺産」推進委員会

- 総合地球環境学研究所／東京大学生産技術研究所　村松伸
- 東京大学生産技術研究所　腰原幹雄

木造住宅等の地域材利用拡大事業を開催しました

企画総務委員会　委員長　林　康文

今、木材が注目されています。2010年には、日本の眠れる森林資源である木材の利用を促進するための法律（公共建築物等における木材の利用促進に関する法律）が施行されました。（公社）広島県建築士会を含む県内の13の建築、林業関係団体及び企業とで構成する広島県木造住宅生産体制強化協議会は、地域材の利用を拡大するために8つの取り組みを企画しています。2015年10月に、（公社）広島県建築士会が中心となり『県産材利用住宅見学会Ⅰ・Ⅱ』と、『木材を活用したイベント事業』を「ぺあせろべ2015」に合わせて開催致しました。

「県産材利用住宅見学会Ⅰ･Ⅱ」報告

住宅研究会　柳田　真俊

■県産材利用住宅見学会Ⅰ：10月3日（土）

1．廿日市市串戸の山林見学

「小城材木店」の小城林勲氏の案内で、廿日市市近郊の山林に入り、伐採現場を見学しました。木材は葉枯らしの自然乾燥で一冬を越し、長さ3mと6mに現場で切断され搬出されます。

2．マルニ木工低温乾燥工場見学

製材された木材は野積乾燥された後、低温乾燥を行います。木材の乾燥を急速に高温で行うと材の成分が失われ、粘り強度や香りも失い、ひび割れを起こすことから、低温乾燥により管理しているそうです。

3．木造住宅見学

①杜のアレイ（海田町）

県産材の杉材にこだわり、内･外部とも木材が見え、木の香りが優しく、天井高さを押さえた瀟洒な住宅です。設計者の意図を巧みに実現した回遊性のある動線で視線が広がり、周辺環境とも調和した佇まいです。

②終の棲家（東区戸坂町）

日本の木造建築の伝統にこだわり、継手等に金物を使わず、大工の手による刻みで作り上げ、美しい木組みが直接目に入る住まいです。壁は土塗の真壁で、下地は竹木舞で一切の新建材を使っていません。

■県産材利用住宅見学会Ⅱ：10月25日（日）

1．せんだ保育所（福山市千田町）

木造の保育所で耐火性能を確保のため、構造部材に「燃えしろ設計」を確保し、大断面による構造集成材によりシンプルな構造美を醸し出しています。今後、広島県内において、公共施設を積極的に木造で建築するには、発注者である行政側の理解が必要であると感じました。

2．後山山荘（福山市鞆町）

この建物は、建築家・藤井厚二氏が設計した昭和初期の別荘を、地元建築家・前田圭介氏が再生したものです。古民家再生の残す材料と、新しい建築として導入する材料が調和し、庭園と建築が共鳴して、鞆の浦が一望できる景観と相まって瀬戸内の穏やかな風景を醸し出しています。

3．神勝寺寺務所（福山市沼隈町）

建築家・藤森照信氏の設計であり、境内の中で唯一新築されたものです。この建築の特徴は、県産材の赤松と屋根の銅板葺きです。銅板は手作業で折り曲げて作ったもので、工業製品にはない味わい深い屋根が実現しています。

4．ＮＯＫＩＹＡ（福山市高西町）

１階は河川氾濫浸水想定地域ということでＲＣ造とし、２階は木造の混構造で、県内産を使用してモダンな住まいを実現しています。生活空間は２階にあり、リズム感のある開口部が配置され、河川から吹き抜ける風が気持ちよく室内を通り抜けています。

■まとめ

この県産材利用住宅見学会を通して、改めて木造建築の設計における建築家の役割の重要さを実感しました。建築家の選定は建築主にとって、あるいは地域にとっても将来の財産につながることになるため、思慮深い建築家と一緒に、優れた住まいづくりを目指すことが大切だと思いました。

事業委員会講演会　公開まちづくりセミナー2015
「Timberize 都市木造の可能性」のご報告

事業委員会　浦山　豊隆

10月10日(土)、合人社ウエンディ ひと・まちプラザ・マルチメディアスタジオにおいて、公開まちづくりセミナーを開催しました。東京大学生産技術研究所教授の腰原幹雄氏をお招きし、「Timberize 都市木造の可能性」をテーマにご講演いただきました。

10月8～12日、イオンモール祇園内のイオンホールで開催された、広島県木造住宅生産体制強化推進協議会が主催の『ひろしまウッドフェスタ 2015』というイベントに関連する企画として賛同をいただき、今回の講演を依頼するに至りました。講演会には約100名のご参加をいただき、テーマである「都市木造」についての関心の高さがうかがわれました。

腰原教授はＮＰＯ法人「team Timberize」の理事長も務められており、「都市木造」の可能性を模索し、普及活動にも尽力されています。「Timberize」とは、造語であるとのこと。その造語に込められた意味は、伝統工法や慣習にとらわれるのではなく、木を用い、木造の新しい可能性を模索し、木という素材を新しい素材として捉え、木という素材と向かい合うというものです。2000年の建築基準法改正により、大規模木造建築について緩和が行われ、2009年にＮＰＯ法人を設立されるに至られました。初期の活動は、模型の展示会を全国各地で開催し、啓蒙を目的としたＰＲ活動を行うことが主だったそうです。「木造」と言えば住宅建築が主となっていて、都市部の新しい建築物では「木造」を見かけることはなくなってきているという状況、木材の団体、建築の団体相互の理解、交流が乏しかったという状況など、設立当初は多くの課題があったとのことです。

例えば、「大規模建築物」組織事務所―ゼネコン、「木造住宅」小規模事務所―工務店という図式が出来上がっていますが、「都市木造」においては、取り組まれた当初は誰もが未体験であったため、材木業者、木材組合や製材所などとの事前調整などのやりとりが出会いや驚きの連続で、「ものづくりの原点」というべき楽しさを実感することができたそうです。

「都市に木造を広めていくためには、材木業界、建設業界の相互がもっと歩み寄っていく必要があるのではないか。そこにあるもので、建築は造らなければいけないのではないかという考えに気づき、ものづくりの原点を見直す必要がある。林業→材木→建築→廃棄という流れになってしまうため、もっと大きな循環として、山や自然に還元できるように、「林業」を潤すためには木材の需要自体を増やしていく必要がある。住宅着工戸数が減ってきているため、非住宅の建物を木造でつくるという市場を開拓していく必要がある。」との指摘があり、我々がもっと「木」を用いていくことの社会的意味を感じました。

近代における「木造」の表現について説明があり、モダニズム期では建築家による伝統建築に近い作品群、バブル期ではドームや博物館などの大架構トラスの作品群に用いられていた時代があり、その生活スタイルや社会システムの変化に適用させていく必要があるとのことでした。

「都市木造」の表現については、「東京オリンピック2020の関連施設をティンバライズしたらどうなるだろう？」ということをテーマとした競技場、集合住宅、オフィス、保育施設、サイクリングロードなどの作品群や、事務所建築、集合住宅などについて、作品や事例をもとに説明がありました。

初期の作品では木を用いる部位が耐火等の技術的な課題や制約等があり、部分的な表現に限定されていましたが、試行錯誤や開発が繰り返され、ひとつの建築物のうちで木を見せる部位が増えてきているということでした。

工法においても軸組からパネル工法などに展開していき、現在ではさらに発展させて、木材をコア状に構成した構造体として用いるようになってきているとのことでした。

作品や事例を見ていくと、今後の建築物や街並みに対する「都市木造」の表現の可能性について、広がりを感じることができました。

地域だより
広　島

国際交流フェスティバル「ぺあせろべ2015」

広島支部長　生田　文雄

広島支部では、これまで実施した「建築フェスティバル」に代わり、国際交流事業「ぺあせろべ 2015」を、10月18日に基町中央公園芝生広場で開催しました。

「ぺあせろべ」とは、英語の「ＰＥＡＣＥ＆ＬＯＶＥ」をスペイン語風に発音した造語。1984年、国際交流を図ろうと始まりました。以後30年間開催されてきましたが、運営を担うスタッフ不足などにより、一昨年に終了。しかし存続を望む声を聞きつけた支部は、課題であった建築士会をより広く社会にアピールする場にしようと考え、今年から事務局を担うことにしました。隣接地でフードフェスティバルが開催されるため、毎回、約３万人の一般市民の参加が見込まれ、士会の活動などをアピールする絶好の場を得ることができました。

今年度は支部会員が東日本大震災の支援派遣をした縁で、福島交流会としてはるばる相馬市から参加していただき、海の珍味や漁師の「まかない汁」をふるまっていただきました。さらに地域材の活用拡大を目的に、一般市民に木に触れ・親しんでもらう「林野庁木造住宅等地域材活用拡大事業」を同時開催。木製迷路づくり、ミニカーづくりなど、好天の中、最高の賑わいとなりました。今後もこの場を活用し、建築士会の存在を社会にアピールしていきたいと考えています。

ダンボール･ドーム

青年部　森保　直也

青年部は、近畿大学の松本慎也先生のご指導の下、近畿大学工学部・広島県立工業高等学校の生徒さん達と一緒に、ダンボールを使ったドームを製作しました。想像以上に大変な作業でしたが、なんとか完成までこぎつけ、来場者の方々に喜んでいただけたのではないかと感じています。

今回は、歴史あるお祭りをサポートする立場で参加させていただきましたが、結果的に「ぺあせろべ」継続のお手伝いができたと感じています。本来の地域貢献、社会貢献というのは、業界分野等にかかわらず、お手伝いを必要とされている方々に対して、できることをやっていくという当たり前のことなのかもしれないと思いました。何はともあれ、無事に終わってホッとしています。

建物見学会

見学委員会　吉谷　勝美

会場に隣接する「基町高層住宅」、3 月に完成した「アストラムライン新白島駅」、広島城に対峙する「広島市立基町高等学校」の３つの建物の見学会を行いました。建設に至る経緯やデザイン等の設計コンセプトの解説を行い、参加者の皆さんは興味深く聞きながら見学されていました。

「基町高層住宅」…ピロティ形式や雁行配置等の説明に加え、設計者の系譜や戦後の住宅難からの歴史的な背景も紹介することで、建物をより深く理解していただけました。「周辺から見るとモダンで都会的なイメージがある。敷地内に入ると屋上庭園などがあり、おしゃれ、住んでみたい」、といった感想を頂きました。

「アストラムライン新白島駅」…JR 新白島駅との連絡通路の工事を残して駅舎部分が完成しています。「デザインが印象的で、『風の谷のナウシカ』のオームみたい」、といった感想を語られていました。

「市立基町高等学校」…デザインの奇抜さの優位さと、それゆえの苦労話や廊下に机を出して自習する名物の「基町スタイル」について、教頭先生から説明を頂きました。

後日、「原爆からの復興時点で多士済々の建築士、土木デザイナーの方々の素晴らしい活躍のおかげで広島があることを知り、建築士や先生等が連携して取り組むことに触れることができました」とのメールを頂戴しました。

どんこのつみれ汁 ～福島交流ブース～

まちづくり委員会　福馬　晶子

皆さん、「どんこ」って知ってますか？広島にお住まいの方なら、川の小さな魚や分厚いシイタケなどを思い起こすのではないかと思います。福島県の海側では、深海魚の「エゾイソアイナメ」というタラ科の大きな魚のことを「どんこ」と言うのです。深海魚で見栄えが良くないので市場に流通しておらず、大体、地元の魚屋で安くに販売しているため、地元では納豆のような扱いをされていますが、ソウルフードなのです。

津波の被害を受け、家、船、加工場、事務所を流された相馬の若者たちが、流された福島の文化をより多くの人に知ってもらおうと考えたのが、この「どんこのつみれ」―通称「どんこボール」で、そのつみれ汁を、全国各地で振る舞っているのです。当日は秋にもかかわらず猛暑となり、売れ行きはあまり良くありませんでしたが、飲んでいただいた方には、上品な味だと好評でした。

当日は、中国新聞・RCC テレビにも取り上げられました。相馬の若者たちは来年も来たいと言ってくれています。是非、来年もいらっしゃってください！

木材を活用したイベント「木製迷路」と「エコカーグランプリ」

広島支部　河野　房子

広島県産の杉材を利用して、14.0ｍ×11.0ｍの「木製迷路」を作成しました。木製迷路は 99 本の杉柱で組み立て、中央に監視台を兼ねた中央塔を設けたもの。迷路の中に檜柱・松柱を 2 カ所ずつ設置し、「この柱は何の木」と問題を出しましたが、一般の方には区別は難しかったようです。景品のけん玉はとても好評で、長蛇！の列ができました。「エコカーグランプリ」は、用意した端材や木製車輪で子どもたちが好きな形の車両を組み立て、コースを走らせるもの。転倒する車もあり、親たちも一緒に楽しんでいました。フードフェスティバルの会場と隣接しており、大勢のお客様で賑わいました。

前日の 17 日早朝から迷路組み立て、当日 18 日の受付・案内・監視、最後の解体撤収作業に関わっていただいた、「広島県建築センター」延 24 人の大工職人さん、「広島県立広島工業高校建築科」延 26 人の生徒の皆様、「建築士会広島支部青年女性部会」延 16 人の有志の皆様、ありがとうございました。

学校というハコから飛び出して見る世界

広島県立広島工業高等学校　建築科　主任　茂上　香織

大人に混じって作業をし、話しをして、プロの空気を肌で感じること。これは雑誌に載っている建築物を見て満足するよりも、その場所へ行き、目で肌で風景を感じる方がうんと何かを掴むことができることと同じ。感じ方は生徒それぞれだけれども，掴んだモノは次の世界へ旅立つ前の心構えとしてストックされていきます。後々、大人になって気づくことだってあります。

大人に説明をすることで、新しい知識や思わぬ視点を教わり、顔つきが変わった生徒。大人がテキパキと細やかに動く姿に敵わないなと呟く生徒。自分が手伝った迷路で遊ぶ子どもを見て，自己肯定感が満たされた生徒。最初はモジモジしていたのに、終盤では積極的に行動している生徒。「ぺあせろべ」が終わり、生徒が満足して帰って行く姿は誇らしかったです。

生徒たちのこれらの成長は、このイベントに声を掛けてくださったおかげです。この場を借りて生徒に関わって頂いた皆様に感謝申し上げます。

地域だより 東広島　西条「酒まつり」に参加しました

東広島支部　高尾　康明

東広島支部では、西条「酒まつり」の10月10日(土)、青年・女性委員会の事業活動として例年通り、「手形漆喰づくり」をチャリティ事業として出店し、盛況のうちに 14 時頃には用意していた約290枚が完売となりました。

今年は、西側約 100 メートルにあった「賀茂輝酒造」さんが廃業されたことから、完売までには時間がかかるのではと思っていましたが、好天に恵まれたことや、その先にある「サタケ本社」での西条酒まつりイベントへの子ども連れの参加者が多くあったことなどから、その影響はほとんど感じられませんでした。

毎年この手形づくりを楽しみにいらっしゃる多くの親子連れで賑わいました。初めて来られたお母さんは、支部会員の手を借りて、０歳の子の手形と足形を取られました。愛犬を連れて来られた女性も同じく２人がかりで無事、漆喰手形(犬の両前足)を作られてご満悦でした。

私たちもボランティア活動での知り合いや、他支部会員との 40 年ぶりの偶然の再会もあり、昔話に花が咲きました。継続して出店することの意義をまた一つ気付かされました。チャリティの募金も２万円集まり、地元社会福祉協議会に寄付をすることとしています。

地域だより 尾道　住宅相談会(おのみち福祉まつり)活動報告

尾道支部　半田　敦之

「住まいに関する何でも相談会（住宅相談会)」を実施しました。この住宅相談会は当支部の活動報告や耐震等に関する啓発を目的に、平成19年から毎年実施しています。今年度の住宅相談会では、住まいに関する相談コーナーを設置。耐震診断・耐震改修のパンフレットや空き家の適正管理、土砂災害対策の改修工事の補助制度のチラシの配布、耐震模型による耐震実験の実演、大地震による加震実験映像の上映、耐震診断、耐震改修補助制度の啓発を行った「ピックアップ情報おのみち」の上映等を行いました。さらに、本年度も尾道市耐震診断補助事業の希望者を募るため、耐震模型を使って筋交いの違いによる建物の耐震性を実感していただくなど、来場者が住宅の耐震化の必要性をより認識できるような説明を工夫しました。

なお、来場者全員に記念品としてティッシュ・風船等を配り、大変好評でした。

今回の住宅相談会は、「おのみち福祉まつり」の事業の一環として開催したこともあり、子どもから高齢者まで1,250 人を超える多くの方にご来場いただきました。回を重ねるごとに、「おのみち福祉まつり」の一部として定着した感じもあります。

「より早く・より公正に・より親切に」をモットーに
より確かなサービスを提供します

- 指定確認検査機関
- 登録建築物調査機関
- 住宅瑕疵担保責任保険業務
- 住宅省エネラベル適合性評価業務
- 登録住宅性能評価機関
- 適合証明業務（フラット３５）
- 調査診断業務（耐震診断等）
- 建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）評価業務
- 指定構造計算適合性判定機関
- 長期優良住宅認定審査業務
- 耐震診断判定業務
- すまい給付金関連業務

株式会社 ジエイ・イー・サポート
URL　http://www.jesupport.jp/
本社　〒730-0029　広島市中区三川町7-1
TEL：082-546-1378　FAX：082-249-7190
支店：東京
e-mail：mail@jesupport.jp

第58回　建築士会全国大会　石川大会

松本　浩一

今年度の全国大会は、10月30日（金)、石川県金沢市で開催されました。参加者は00人、広島県参加者は00人でした。

記念講演では、前市長の山出保氏が「伝統と文化のまちづくり」というテーマで話されました。金沢市は430年以上戦災に遭ったことのない都市で、伝統文化・環境を保存する義務があるということを熱弁されました。金沢市では年に200件以上の町家が姿を消しているそうです。

交流セッションでは、石川県建築士会が、「おくりいえプロジェクト」という取り壊しが決定している町家を送る（贈る）イベントを発表しました。既に30回開催され、掃除や装飾等をして、町家の最後を彩る心温まるプロジェクトです。

濱田昌範さん

記念式典では、連合会賞入賞者優秀賞を、広島県の濱田昌範氏が「軒家 /NOKIYA」で受賞されました。

来年の第 59 回の全国大会は大分大会で、平成 28 年 10 月 22 日（土）に開催予定です。

美味しいけんちく 2

好きなけんちくの中で、美味しいものを頂く―こんなに楽しいことはありませんね。このコーナーでは、3回シリーズでミニ情報をお伝えします。是非、足を運んで下さい。

広報委員 神岡　千春

「トレッタみよし」の唐麺巻き

表紙で紹介した「トレッタみよし」は、つくる人と食べる人、畑と食卓、地域の人同士など、様々な交流が体験できる施設です。11月の休日に初めて訪れましたが、天気も良く、多くの人で賑わっていました。

早速、おいしい出合いを探検。「トレッタ旬彩コーナー」には、農家の皆さんが心を込めて育てた季節の恵みが並んでいました。私は、「味よし・品よし・体によし」を認証基準にした「柿ジャム」を購入。手書きのラベルもかわいい！三次ならではの「鮎醤油」や「鮎寿司」もありました。

お昼のお目当ては、三次の新鮮な野菜・果物をメインに使った「バイキング・レストラン」。この日は家族連れでいっぱいで、入店をあきらめ、店内をうろうろ。お薦めランチを発見！三次名物の唐麺を使った「唐麺巻き」です。食欲をそそる辛い麺を薄焼き卵と海苔で巻き、真ん中のキュウリとマヨネーズの甘さが口当たりを和らげます。

施設内には、オリジナルパンを提供するパン工房「GREEN 麦麦」や、調理体験工房もあります。三次に行かれた際には、是非お立ち寄りください。

安全で安心な住まいづくりをサポートします。

- 建築確認・検査
- 住宅性能評価
- フラット 35 適合証明
- 長期優良住宅技術審査
- 低炭素建築物技術審査
- 住宅かし担保責任保険

住宅保証機構㈱　（まもりすまい保険）
㈱住宅あんしん保証　（あんしん住宅瑕疵保険）
㈱日本住宅保証検査機構　（JIO わが家の保険）
㈱ハウスジーメン（ハウスジーメン住宅かし保険）
ハウスプラス住宅保証㈱（ハウスプラスすまい保険）

指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関
株式会社 広島建築住宅センター
URL:http://www.hkjc.co.jp
本社　〒730-0013　広島市中区八丁堀 15-10
TEL(082)228-2220　FAX(082)228-2231
営業所　〒720-0034　福山市若松町 8-22
TEL(084)928-3979　FAX(084)928-3974